

# デザイン思考によるアントレプレナーシップ教育の全学教育への導入 及び産学連携における位置づけに関する報告

○ 松前あかね\*, 佐藤三郎\*, 中村隆敏\*, R. Piyadasa\*, S. Matsumae\*, K. Burrow\*\*

\*佐賀大学, \*\*Karllestone Capital

Contact: akane@jLawyers.jp

## 1. はじめに

近年、大学におけるアントレプレナーシップ教育の導入が盛んであるが、それらの多くは都市部大規模大学、あるいは、従来の理工系イノベーション人材教育の枠組において実施されるものである。

そこで、地方中小規模大学にあって、多学部からの受講生が混在する2年間の選択必修全学教育プログラムとして、デザイン思考による体系的アントレプレナーシップ教育プログラムを導入した佐賀大学での導入過程、及び当該プログラムの産学・地域連携活動における位置づけを報告し、必ずしもリソースが潤沢ではない地方中小規模大学におけるアントレプレナーシップ教育のあり方を探りたい。

## 2. 全学教育への導入過程

### 2.1 BGen ワークショップ (H23 年度～)

佐賀産官学6者協定事業の一貫として、6カ国を背景とする8才～65才の多様な職種・属性の参加者と共に、ビジネスモデルCanvasを活用したビジネスモデル創出ワークショップを全国に先駆けて試行した。

その後もワークショップを重ね、デザインされた事業モデルを対象事業者において実践に移すことで、絵に描いた餅とせず、着実な小規模地域イノベーションを重ねた。

### 2.2 インターフェース教育 (H25 年度～)

平成25年度より、佐賀大学の新たな教養教育の核として、大学と社会との接続教育、インターフェース教育が導入されている。全学(医・理工・農・経・文教)からの受講生が2年間の選択必修として同一のプログラムを履修し、現代社会の問題の中に自ら課題を発見し、解決に取り組む姿勢を培い、解決のための方途を見出すとされる。このインターフェース教育の1つとして、本アントレプレナーシッププログラムを整備した。

## 3. 産学・地域連携における位置づけ

本プログラムは大学COC事業に登録され地域連携の一翼を担う。また、今後、外部に開かれたデザイン思考ワークショップを介して

本アントレプレナーシップ教育が産学連携プロジェクトの端緒として機能することを期待する。

## 4. おわりに

平成23～24年度にかけて、学部・大学院における関連講義あるいは産学・地域連携活動の一貫としてデザイン思考ワークショップを試行した。平成25年度より、全学教育2年間連続選択必修プログラムとしてのアントレプレナーシッププログラムの整備を進め、平成26年度に新規開講した。

本プログラムは教育に軸を置き、文部科学省地(知)の拠点整備事業に登録され、地域連携の一翼を担う。他方で、従来より教養教育として実施されてきた産業に軸足を置いたベンチャー教育と共に両輪となり、イノベーション人材教育の立場から産学連携によるイノベーション創出に貢献することが期待されている。

教育プログラムとしての成果の測定が今後の課題であり、試行に着手した段階である。

## 参考文献

- [1] A. Osterwalder, and Y.Pigneur, Business Model Generation, Wiley, USA, June 2011
- [2] A. Matsumae, and K. Burrow, Application of the Business Model Canvas to a Japanese Local Community to Co-design the Social Business, Proc. of the International Conference on Convergence Content 2012 (ICCC2012), 2012
- [3] A. Matsumae, K. Burrow, S. Matsumae, P. Ratnayake, and S. Saburoh, Application of the Business Model Canvas to a Multi-Cultural Community to Co-create a Business Model Innovation, Proc. of the International Conference on Convergence Content 2012 (ICCC2012), 2012
- [4] 佐賀大学, 佐賀大学の教育「佐賀大学の特徴的教養教育- インターフェース科目-」, <http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/openampus/2013/006.kyoiku.pdf> (2014年4月9日)
- [5] 佐賀大学, 平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」コミュニティーキャンパス佐賀アクティベーションプロジェクト, <http://www.ccsap.saga-u.ac.jp/> (2014年4月9日)



# デザイン思考によるアントレプレナーシップ教育の 全学教育への導入および 産学連携における位置づけに関する報告

## ABSTRACT

本報告では、佐賀大学における、デザイン思考によるアントレプレナーシップ教育の導入過程・プログラム内容・産学連携における位置づけについて報告する。

佐賀大学では、産学連携活動の一環として、平成23年度よりビジネスモデル創出CANVASを中心とするデザイン思考ワークショップの活用を試行してきた。

これらの試行を背景に、平成26年度より、インターフェース教育(大学と社会を接続する教養教育)の一環として、デザイン思考によるアントレプレナーシップ教育プログラムを本格導入する。

本プログラムは、アントレプレナーシップⅠ～Ⅳ(選択必修科目)および同Ⅴ(集中講義)により構成され、学部横断的に募集・抽選により選抜された受講生には、必修科目として同Ⅰ～Ⅳの連続受講(2・3年次)が求められる。

また、本プログラムは平成26年度より、新たに文部科学省大学COC事業「地(知)の拠点整備事業」参加プログラムとしての登録を受け、産学連携のみならず地域連携の一端も担う。

## Authors

Akane Matsumae\*,  
Saburoh Satoh\*,  
Ratnayake Piyadasa\*,  
Susumu Matsumae\*,  
Takatoshi Nakamura\*,  
Karl Burrow\*\*

\*Saga University,  
\*\*Karllestone Capital

## Contact

Akane Matsumae, Saga Univ.  
akane@jLawyers.jp

## 1. Business Model Generation ワークショップの実施 (平成23年度～)

### 1.1 多様な参加者 Point!

#### 国籍の多様性

日本, スリランカ, イタリア, 台湾, 中国, アメリカ

#### 職業の多様性

学生, 経営者(伝統産業・教育・飲食店), 起業家, プロクラシック音楽家, パティシエ, 映像プロデューサー・デザイナー, 公務員(若手・中堅・シニア), 医師, 保育士, 福祉団体職員, 非営利団体職員, 主婦, 市民活動家, 退職者, 求職者, 小学生

#### 年齢の多様性

8歳～64歳



Figure 1. ワークショップ風景

### 1.2 ワークショップの基本的な流れ

現場, あるいは, 現場動画を流せる環境下での実施 Point!

#### Step1 対象ビジネスの把握

対象ビジネスの社会的ミッションと現状・課題につき参加者で認識を共有.

#### Step2 Empathy Map

対象ビジネスの掲げる社会的ミッション達成へ向けた地域コミュニティ巻き込みのため, 各グループにおいて設定した顧客層の顧客ニーズをEmpathy Mapの活用により探索.

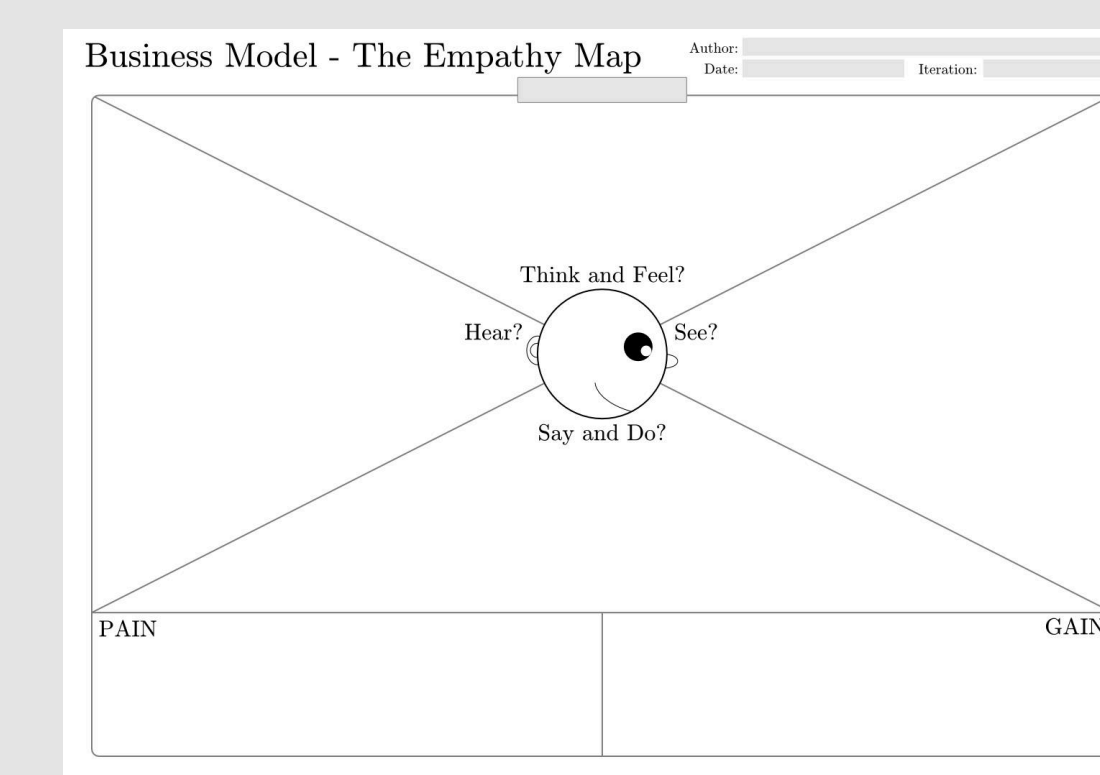


Figure 2. Empathy Map

Step3 ビジネスモデル創出CANVAS  
顧客ニーズを元に取り組むべき価値提案(Value Proposition, VP)を検討し, そのVPを軸にビジネスモデル(BM)全体を共創.

次いで, 任意のBM要素へのWhat if ?問題提起によるPivotingを促し, 各BM要素の掘り下げとBMの再構築を繰返しBMイノベーションを導く.

Step4 実践への仕掛け Point!  
絵に描いた餅に終わらせないため, 対象ビジネス経営者が立場を伏せてワークに参加し, 適宜試行・導入.

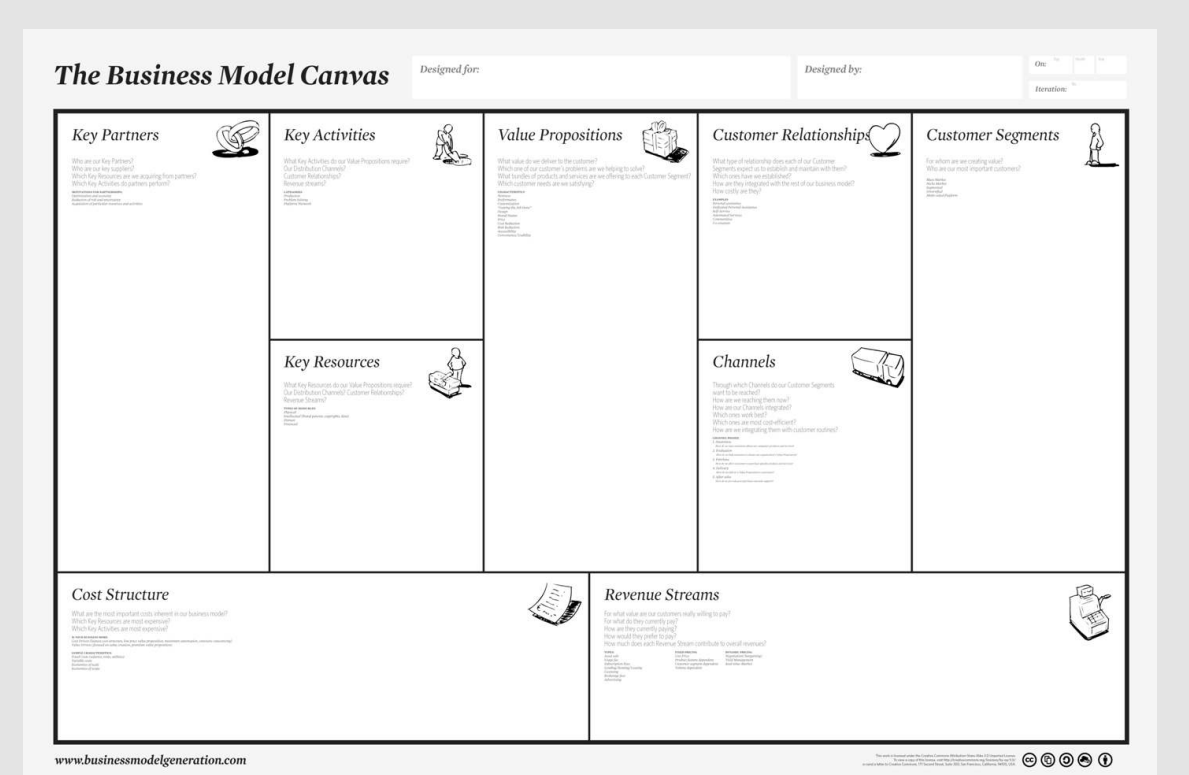


Figure 3. ビジネスモデル創出CANVAS

## 2. 全学教育への導入 (平成25年度～)

### 2.1 インターフェース教育 (大学と社会との接続教育)

将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を身につける佐賀大学の新たな教養教育の核となる教育.

調査・報告・討議・実験・実習などのアクティブ・ラーニングを多用し, 現代社会の問題の中に自ら課題を発見し, 解決に取り組む姿勢を培い, 解決のための方途を見出す. 専門教育と融合して, 学士課程教育で身に付けた知識・技能を社会において十分に生かすための力を養う.

インターフェース教育で期待される教育成果  
聞く力, 話す力, 協働する力, 倫理観, 社会的責任感, 持続的学習力, 社会参画力

### 2.2 アントレプレナーシップ・プログラム育成する人材像

変革の時代にあって, 起業家に限らず, 社会のあらゆる分野において新たな価値創造に挑戦するグローバル・リーダー人材を育成する.

#### 大学教育における位置づけ Point!

インターフェース教育を構成するプログラムの1つとしての開講.

多様な学部(医・理工・農・経・文教)に所属する2・3年次の学生40名が, 選択必修科目として4期連続受講し, 希望者は集中講義として, 長期休業中に自らのプロジェクトを深め・進展させることができる.

#### プログラムの特徴

学部横断型, 連続選択必修, アクティブ・ラーニング, デザイン思考, 産学・地域連携との融合



Figure 4. アントレプレナーシッププログラムが目指す人材育成



Figure 5. アントレプレナーシッププログラムの概要

## 3. 産学・地域連携とアントレプレナーシップ教育の融合

### 3.1 大学COC事業:地(知)の拠点

佐賀大学・西九州大学では, 文部科学省大学COC事業として, 佐賀県全域をキャンパスと位置付け, 佐賀県域(地)と教育研究(知)の活性化を図る「コミュニティ・キャンパス佐賀アクセシビリティ・プロジェクト」を実施している.

佐賀大学アントレプレナーシップ・プログラムは, 上記COC事業の12事業のうち「学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創生プログラム」に協力する.

### 3.2 デザイン思考ワークショップ

1.のデザイン思考ワークショップによるイノベーション共創を, より専門性を高めた形で産学連携活動に導入する.

大学保有シーズをテーマに, 関連事業者・研究者・市民・学生ら多様な参加者による集中プログラムの実施により, 過程におけるアントレプレナーシップ教育, 成果としての産学連携プロジェクトの端緒を得, 事業者による実施, またはA-STEP等の枠組に移行する.

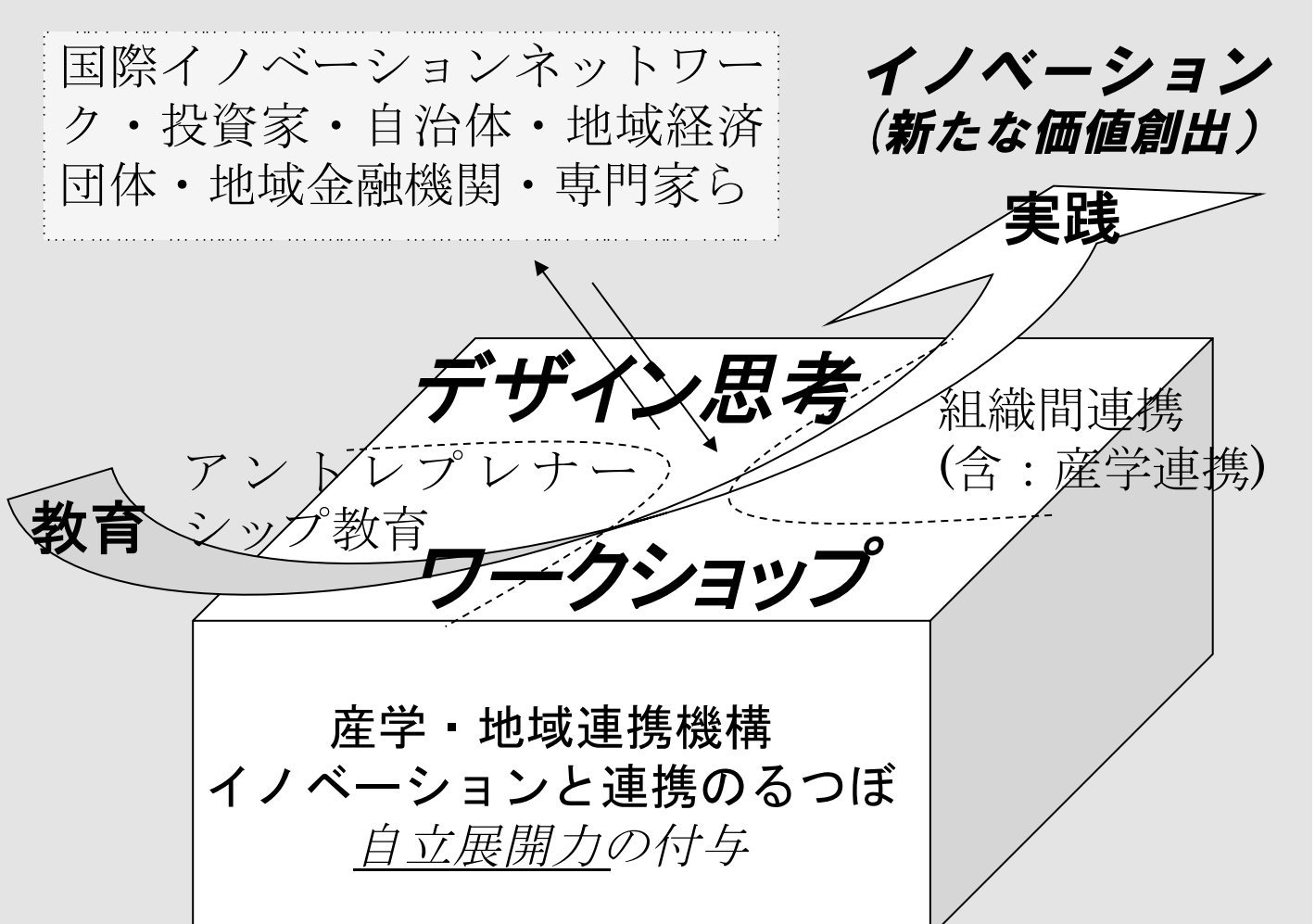


Figure 6. アントレプレナーシップ教育と産学・地域連携の融合

**Proposal for collaboration** (education, research and project etc)